環境マネジメント

基本的な考え方

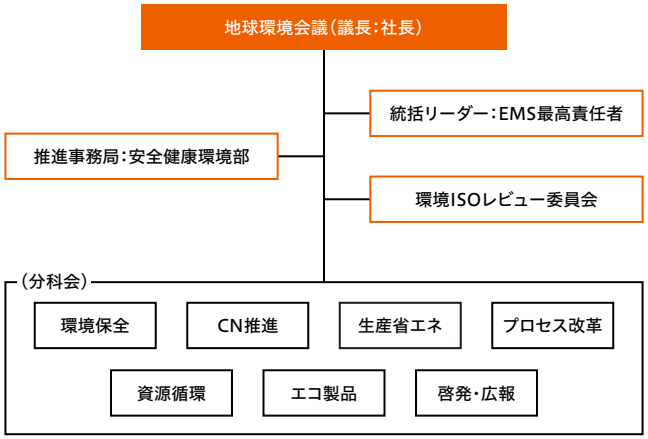
2030年ビジョンの経営ミッションの一つである「環境に一番やさしい鉄屋」として社会への貢献に向け、2025年までのアクションプランとして「アイチ環境取り組みプラン2025」を策定しています。2025年までに達成すべき目標を定め、その実現に向け、「エコエネルギー」「エコプロダクション」「エコマネジメント」の3本柱を中心に取り組んでいます。

	取り組み	2025年目標
エコ エネルギー	・エネルギー効率の追求 ・製造プロセス改革 ・クリーンエネルギー導入	CO_2排出量： **30**%削減 （2013年度比）
エコ プロダクション	・エコ製品・エコ技術開発 ・次世代インフラへの貢献 ・資源循環の追求	埋立処分量： **2,400**t/年以下
エコ マネジメント	・環境責任の徹底 ・自然・生物多様性保全 ・環境情報発信・開示	中新田環境指標種： **27**種誘致

推進体制

取締役会の監督下で社長を議長とする「地球環境会議」を中心に、PDCAサイクルを効果的に回し、環境マネジメントの推進に取り組んでいます。地球環境会議では会社方針およびアイチ環境取り組みプランに基づいた、戦略の実行や目標の設定、進捗状況の確認を行っています。地球環境会議の下部組織として7つの分科会を設置し、担当範囲を明確にすることで効率的・重点的に活動を専門的な視点から推進しています。またグループ会社との連絡会を設け、情報や好事例を共有することでグループ一体となって活動しています。

● 体制図



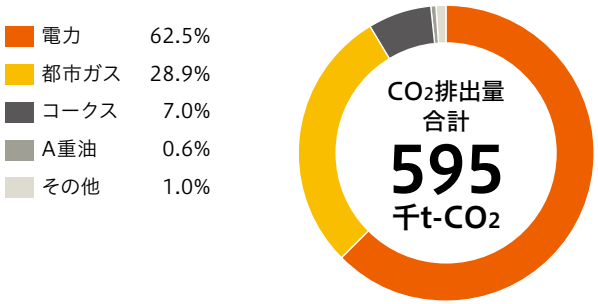
分科会	取り組み
環境保全	・異常・苦情の防止、生物多様性や緑地保全活動
CN推進	・CO_2に関する情報収集、戦略立案など
生産省エネ	・省エネ・生産効率向上などの改善
プロセス改革	・生産工程における革新的技術の開発など
資源循環	・再使用、廃棄物・原材料の再利用の取り組みなど
エコ製品	・環境貢献製品の開発など
啓発・広報	・CN、SDGsなど活動推進に向けた社内外へのメッセージ発信

エコエネルギー

当社のCO_2排出量の約9割は、鉄スクラップの溶解や鋼材の加熱などで使用する電力と都市ガスによるものです。2050年でのカーボンニュートラル実現に向けて策定したロードマップに基づき、これまで培った省エネ技術を深化させる取り組みと日常における徹底したムダの排除、そして抜本的な製造プロセス改善によるエネルギー削減を推進しています。2024年度は129件の省エネ活動に取り組みました。

非化石エネルギー導入については、オンサイトPPAでの太陽光発電をすでに関工場および岐阜工場に導入しています。2025年度には新たに東浦工場に太陽光発電設備を設置するとともに、オフサイトPPAによるバイオマス発電なども活用し、計画的に非化石エネルギーの導入拡大を進めていきます。

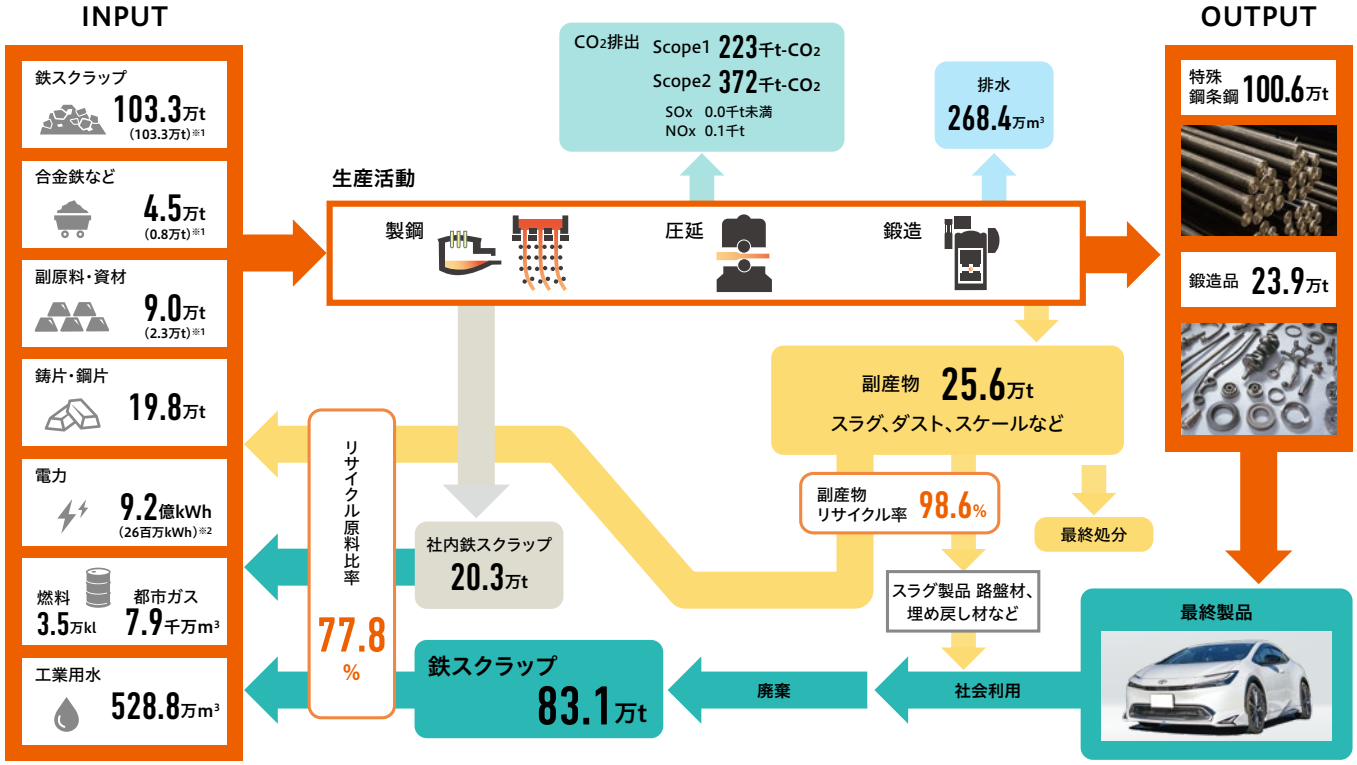
● 2024年度CO_2排出量内訳（愛知製鋼単体のScope 1＋Scope 2）



資源循環

エコプロダクション

当社は自動車やインフラの解体などから発生する鉄スクラップを高品質な特殊鋼製品や自動車部品などに再生することで鉄資源の循環と経済価値の両立を実現している資源循環型企業です。資源やエネルギーの効率的な利用により、資源の投入量や消費量を抑えつつ、製品・部品の再使用、廃棄物・原材料の再利用の取り組みをさらに加速させることで、循環経済（サーキュラーエコノミー）への移行を目指します。

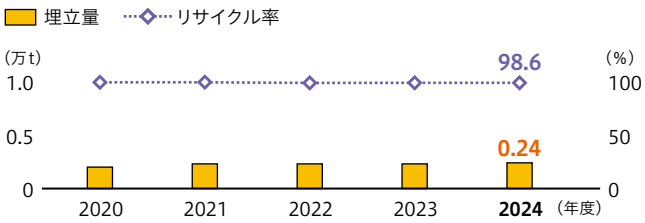


※1（　）内はリサイクル原料　※2（　）内は再生可能エネルギー由来の電力量

副産物リサイクル率向上への取組み

当社は過去には埋め立てていたり副産物のリサイクルを強化し、リサイクル率90%台後半で維持しています。電気炉で発生するスラグは主に道路用路盤材としての利用、電気炉ダストは有価金属の回収を目的として、リサイクル会社に処理を委託しています。また、製鋼・精錬で使用済みとなったレンガ系廃材は選別・破砕を促進し、再び電気炉で造滓資材として活用しています。現在、処理難易度の高いスラグ系の副産物について重点的に造滓資材としてリサイクル化の技術の開発を行っており、2030年には埋立量2000トン、2050年にはゼロを目指します。

● 副産物埋立量とリサイクル率の推移



サーキュラーエコノミーへの取り組み

当社は、自動車用材料、部品およびサプライチェーン全体の連携によりサーキュラーエコノミーの健全な発展、新たな価値創造および地球環境に優しい持続可能なモノづくりの推進を目的とし、一般社団法人Circular Coreに参画しています。本法人では、自動車用材料、部品およびサプライチェーン全体のサーキュラーエコノミーの市場調査、最新の技術動向やビジネスに関する調査/仮説立案・実証および内外関係機関などとの交流や協力などの活動を積極的に行っています。

生物多様性

エコマネジメント

当社は資源循環型企業として、鉄資源の循環と経済価値を両立させたモノづくりを行っています。その事業活動においては、常に天然資源や水などの生物多様性の恵みを受けています。一方で、スクラップの溶解や鋼材の加熱などによるCO_2排出や排水が生物多様性に影響を与えています。

私たちは、現在失われ続けている生物多様性の重要性を深く認識し、以下の方針に基づき、生物多様性を保全し、また自然を守り活用する事業を展開することで持続可能な社会の実現に貢献します。

愛知製鋼グループの生物多様性方針

1. 生態系の保護と回復
- 事業活動が自然に与える影響を評価し、適切な保護措置を講じます。
- 自然の恵みを生かした環境保全策を検討し、影響を最小限に抑えます。
- 特殊鋼製造のノウハウから生まれた当社の独自技術を活用して自然の回復に貢献します。

2. 持続可能な利用
- 自然に影響を与える「気候変動・水・資源」において、持続可能な方法と利用を推進します。

3. 地域社会との協働
- 地域社会と連携し、生物多様性の保全と回復、そして自然を再生へと導くよう行動します。

これらの取り組みを通じて、2050年「自然と共生する世界（ネイチャーポジティブ）」の実現に貢献します。

生物多様性保全の取り組み

当社は、日本経済団体連合会の「生物多様性宣言・行動指針」に賛同し、保全活動に取り組んでいます。また、行政、企業、NPOなどにより設立された「30by30アライアンス」にも参画し、自然再興に貢献しています。

2012年度からは知多工場隣接の中新田緑地で「カブトムシのすむ森づくり」を推進し、50種の指標種が集まる環境整備を実施しています。当社を含む企業や行政、学生、専門家、NPOなどの11団体と連携した「知多半島グリーンベルト」の一環として、2023年度に環境省の「自然共生サイト」に認定されました。

2024年には6000本の植樹とゾーニング※を行い、東海市長も参加する植樹祭を開催しました。11月には「あいち生物多様性優良認証企業」に認定されました。さらに、長野県での森林育成活動を2006年から継続し、2019年には事業用水の水源である王滝村と「森林の里親」契約を締結。従業員や家族が定期的に保全活動を行い、地域と協力して豊かな森づくりを進めています。

※ どの場所にどの植物を植えれば最も効果的かを検証するプロセス

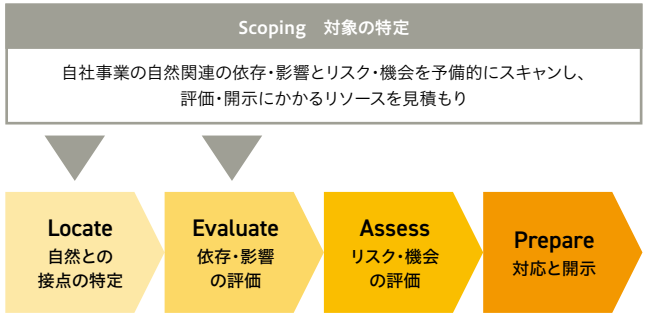
王滝村水源の森育成ボランティアの様子

中新田緑地植樹祭

TNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）に基づいた情報開示

生物や水などの資源は地域や場所によって与える影響に差異があるため、地域ごとの視点での取り組みが必要と考えています。当社はTNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）の提言を踏まえて情報開示を進めていきます。TNFDで提唱されているLEAPアプローチに沿ったプロセスで、当社の事業活動が自然に与える影響の評価を開始しました。2025年度内の公開を目指しています。

ー LEAP/TNFDの解説

LEAPアプローチ
- 自然との接点、自然との依存関係、インパクト、リスク、機会など、自然関連課題の評価のための統合的なアプローチとして、TNFDにより開発されました。
- LEAPアプローチでは、スコーピングを経て、Locate（発見する）、Evaluate（診断する）、Assess（評価する）、Prepare（準備する）のステップを踏み、TNFD情報開示に向けた準備を行います。

● LEAPアプローチ図